

参加者、
伊藤、北島、斎藤、土田、
中島、安田、吉野、
ゲスト、
井野口、田中、

BMW RS Club

かわらばん

の上、4.3

上野原から奥多摩湖を経由
甲斐路を走り桃源郷へ。

かわらばん一中島邦雄 挿絵・小倉玲子

幾つものカーブを上って行くと、穏やかな春の日差しの中で周囲の山々が、もう薄い赤紫の春色に変わり始め、まさに「山笑う」と言う表現そのものの中に入り込んだかのようでした。去年の三月に同じ道を走った時には、上に行くに従い周囲の雪が増え始め、「都民の森」に着いた時には一面の銀世界の中でした。今回は気温13度で風も無くジャンパーを脱ぐような陽気となり、久々に走ったメンバーの顔も輝いて見えました。此処は先月と同じ頃には零下2~3度まで下がった日々も有ったとか。

天気予報では前々からこの日は曇りから雨マークで、当日も午後になると処により雨との予報が出されました。しかし薄日の差す穏やかな朝を迎えて出立度をしていると、幹事の安田さんから「走りに出ますよ~」との電話が入りました。首都高速に向かうと皇居の周りでは、もう早咲きの桜が開き始め、満開のモクレンやカンヒザクラが春の到来を告げているかのようでした。天気予報に騙された人が多いのか、車の数はぐっと少なく快適でしたが、前々からの雨の予報で計画変更をした、やさしい家族思いのメンバーも多かったとみえ、集合地の「石川PA」にはゲストとも八人のみの集まりでした。

九時を回って「上野原IC」に向かうと、日本でやっと売出したという新車の北さんが、アット言う間にぶっ飛んで行きました。今月から高速道路のタンデム走行が解禁され、ピカピカの三輪車に揃いの革ジャンの二人連れが、高速券を受け取るブース内でエンストし、それを後の人気が外に押し出すまで道路に出られず、私一人が置いてきぼりを食いました。

上野原から街中を走り甲武トンネルを抜けると、所々に古びた田舎屋が現れ始めました。開き始めた桃やアンズの花がその家々に彩りを添え、多くの名作を残した風景画家「向井潤吉」の世界を見るかのような風情でした。上川乗の三差路を左折して檜原村から数馬方面へ向かい、十時を少し回って前述の「都民の森」に到着しました。前月のキャンセルを取り戻しても、なお余り有るような最高のツーリング日和に恵まれ、三頭山(みとうさん)のふもとで淡い春の息吹を存分に堪能しました。

上野原でガス補給をした時にはぐれた斎藤さんが、ここで我々に追いついて来ました。

奥多摩湖に向かって山道を登り始めると、道の両側には未だかなりの雪が残っていましたが、道路は乾きワインディングを楽しんでいる内に、間もなく奥多摩湖の湖面が目に飛び込んで来ました。湖岸の桜は未だ堅くつぼみを閉じ、春まだ浅い感じで湖岸が桜の花に包まれるのは、もう少し先のようでしたが、シーズン・オフの静かな湖畔は、何か心安らぐ思いがしました。少し休んで十時半に「柳沢峠」へと向かいました。湖に架かる深山橋を渡り、突き当たりのR411(青梅街道)を左折し、遙か下方を流れる丹波川に沿って、丹波山から大菩薩ラインに入ります。中里介山の長編小説「大菩薩峠」で有名な処です。丹波山村を抜けやや道の下り始めた処が「柳沢峠」で11時に到着。晴天には見事な富士山が望めますが、やや雲が出て周囲の山々も霞んで見えました。このすぐ近くに有る日本百名山の一つ「大菩薩嶺」は標高2057メートルですが、ここでも海拔1400メートル余りで、去年の暮に肺の手術をした斎藤さんは、後になってから少し息苦しかったと言っていました。

山梨県は別名「甲斐の国」甲斐とは山峡(山かい)、山のはざまを表す言葉だそうですが、なるほど山また山で今ではバイクで一飛びですが、かつては甲府や塩山から馬の助けを借り、人が荷を担いで丹波山や青梅の方へ行ったことを思うと、本当に昔の人の苦労が忍ばれます。やや雲が多くなり吉野さんが「今は二つの気圧の谷間に入っていて必ず雨になる」とのご託宣。彼の言葉を信じて急いで峠を下り、食事をして今日は予定より早上がりと言うことになりました。

民家が増えるにつれて辺りを照らすかのようにレンギョウが花を付け、甲府名物の桃の花が腕を伸ばしたような枝に咲き、真っ白なスマモの花が木を覆いつくすかのように咲いていました。十万億土の先に有ると言う彼岸とはこんな処でしょうか。そしてなんとその道の途中に「樋口一葉の墓所」という案内が有ったのにはたまげました。と言うのも吉原や本郷で暮らし、多くの名作を遺した彼女は、当然のように江戸っ子で墓も東京に有ると思っていました。

町に入る手前でゴールドに塗り上げたフラットに乗った、新メンバーの土田さんが合流し、曲がりくねった道を抜けながら、丘の上に有る「笛吹川フルーツ・パーク」へ向かいました。本来ですと此処の山の上に有る「ほったらかしの湯」というのに入る予定でしたが雨が心配で中止にして山を下り、以前にも行った「ワイン茶房-SELECTION」というイタ飯屋へ行きました。暖かいので外の芝生席を用意してもらい、今降りて来た丘の中腹に咲くアンズを眺めながらの会食となりました。

田舎にしては洒落たお店で、振り袖や留め袖姿の着飾った女性も見られ、どうやら結婚式の披露宴でもやっている感じでした。腹がすいて色々に頼んだところ「客が立て

混んでいて時間がかかり、特にピザパイはお

待ち願う事になります」との事。以前で

したらビールでも景気よく飲ん

で待ちましたが、今では

「紳士クラブ」を標榜する

我々で酒はご法度の身の上、

ジュースやら水を飲んで静か

に待ちました。各々がパスタ定食を

とり、更にソーセージの盛り合わせ

そして大きなピザパイが四枚出てきました。

サラダに前菜そしてパスタを食べ、更にピザパイ、

仕上げにケーキとコーヒーを平らげました。もう目一杯です。



腹の皮が突っ張れば目の皮はたるみ、誰もが一眠りして帰りたいという話が出ました。吉野さんの言う通りに雲

が次第に厚くなり始め、急いで帰る事となり

ました。此処から「勝沼IC」は混み合う

街中をゴチャゴチャと抜けます

が案の定、信号で引っ掛け

った三台がはぐれ、皆

さんを待たせま

した。「談合坂SA」で

集合予定でしたが雨の

影におびえ、ノン・ストップ

で東京へ帰ることになりました。

空いた道を快調に飛ばし、長いトンネル

を出ると、怖いかにボツンと雨が顔

に当りましたが、すぐに雲が切れ明るくなりました。

雨の予報で出足をくじかれた人が多かったのか、午後になって車が増えようで首都高速はかなりの渋滞でした。しかし腹は満腹そして実に楽しい充実したツーリングをした身にとっては、渋滞も全く気にならず優雅な気分の帰途でした。

千鳥が淵の周辺では朝方にはやっと一分咲きだった桜が、暖かな日中の気温で一度に花開き、帰りは一気に三分咲きといった感じになっていました。お堀にはボートが浮かび、気の早い花見客が堀の回りを大勢歩いていました。

本当に素晴らしい一日に恵まれました。幹事の安田さん、天気の心配をしたりご苦労様でした。そして初めて参加されましたお二人のゲスト方。お楽しみ頂けましたでしょうか。機会がありましたらまたご参加ください。